



## 都市創造3年目にむけて

亜細亜大学都市創造学部 学部長

松岡 拓公雄

都市創造学部は一昨年、開設されて2年目を終えようとしている。

今年度の学部教育プログラム最大の山場である二年生全員によるアジア・アメリカの各都市への海外長期留学に、就業体験を加えた6ヶ月間のプログラムが無事終了の見込みである。この間、各留学先での様々なハプニングが続出したが、学生同士の助け合い、現地の教員やスタッフ、各国担当の教員を中心に国際交流センター、教学センターらのすばい報告と連携、対応や学部執行部の決断で乗り切る事ができた。まさに「自助協力」の精神がいかに発揮された。すでに帰国している学生たちの成長は目を見張るものがあり、この貴重な経験は改善課題も生じているが、教員と各部署のチームの絆を深め、さらに安全にスムーズなプログラムとして進化させる所存である。

社会学や経営学を基盤にした上で、様々な都市コンテンツが相互依存しているその関係性の中で、都市生活を幸せなものにするという理念を抱えた「都市創造学」の教育と研究は始まったばかりである。我々は「教育と研究」に加えて実践的な活動である「社会貢献」もひとつの柱に加えているが、社会、地域貢献にはボランティアや自治体の委託活動などがある。都市創造研究所がその活動の拠点であり、研究所では共通課題の研究や研究成果の発表、シンポジウムなどを企画実行している。同時に実践的な研究貢献活動は開設と同時に始まり、昨年度は武蔵野市からの委託である「武蔵野市産業振興計画改定事前受託調査」の成果が評価され、今年度はその本番の大型の委託を受け現在、教員チームによって都市創造学部らしい方法で進行中である。また他の自治体や民間とのプロジェクトも発芽中で育てている。

次年度から留学を経験した三年生らが各研究室に張り付くことになり、教育の視点からも、研究室活動がようやく機能し始める。この学生らとともに、さらに研究、プロジェクト実践へ拍車がかかり、学部の体制が一步前進する。今後、学生とともに研究教育貢献活動が始められ、新たな成果が生まれてくるであろう。従って、この都市創造学部の紀要にあたる「都市創造学研究」も従来の紀要のような論文だけでなく研究室の各種の報告や提言等も含めた幅広い学部活動報告書として整備していけるようにしたいと個人的には考えている。教育、研究、地域貢献の現況を記録していくことも次世代に継承していく貴重な記録になるであろう。

ワンサイクルがまだ二年先となるが、我が学部の理念は、私立大学の周辺の厳しい環境の中で、外部の活動、講演等での様々な局面において理解を得られ、深まっていることは各教員が肌で感じているが、広く浸透するのはまだ時間が必要である。受験生等にはなかなか伝わらないこともある。我々の使命は未来をなう学生らの意識と能力を磨き、都市生活に社会貢献できる多くの人材の育成と輩出をすることである。そのためにも学部教員がチームとなり、ぶれないように進んで行くことが肝心であり、学生一人一人を大切にしていって大学の方針に沿って、新たな一年を切り開いて行きたい。まだ過渡期ではあるが、すべてを試行錯誤しながらも都市創造学部は着実に前に進んでいることを報告しておきたい。